



太陽光発電システム

A・B・D棟屋根に太陽の光を直接電気に変換して発電する太陽光発電システムを設置しています。無尽蔵ともいえる太陽光を使用し、有害なガスや騒音、振動を出さないので地球に優しい発電システムです。バス乗り場横の壁面にあるパネルには、現在の発電電力・本日の発電電力量が表示されます。また、自然エネルギーの普及を目指す市民参加の取り組みに協力して、体育館の屋根には多摩電力合同会社の太陽光発電システムも設置しています。



サンティアゴ巡礼プログラム

恵泉女学園大学は、環境教育の一環として学生をスペインに派遣しました。期間は2020年2月10日～3月25日を予定していましたが、COVID-19の普及により日程が短縮（3月8日まで）されました。目的は、スペインの世界遺産である"サンティアゴ巡礼の道"で気候危機を訴えることでした。リーダーの桃井和馬さん（本学教員）は、グレタ・トゥンバークさんの国連でのスピーチ（2019年9月23日）に触発され、このテーマに基づいて歩くことにしました。「Climate Crisis!」と書かれたTシャツを着て、ザックの壁の目立つところに旗を置き、現地の人に会って「Climate Crisis!」バッジを配り、スペインで気候変動の話聞き、世界の危機について一緒に考え、大学のウェブサイトのオンライン記事で報告を続けました。



多摩市気候非常事態宣言記念オンライン講演会

2020年8月22日一般社団法人多摩循環型エネルギー協会が主催した「多摩市気候非常事態宣言記念オンライン講演会」に本学学生が登壇しました。一般社団法人多摩循環型エネルギー協会は本学教員が代表理事を務める組織であり、大学としても協力関係にあります。



有機農業の実践

不耕起栽培の実践や落ち葉や雑草などをたい肥による土づくりは、土中に長時間炭素を貯留することにつながり、温室効果ガスの排出削減に大きく寄与することが明らかになっています。また、本学の教育農場は夏休み期間中、畑を裸地としないのみならず、草マルチをした上に、雑草を生育させています。これは、夏の高温期におけるヒートアイランド現象を防止することにつながるのみならず、その場所で雑草を育てて、それお秋学期に畑に投入する資材として利用することで、農場への炭素貯留を高めることにもつながっています。